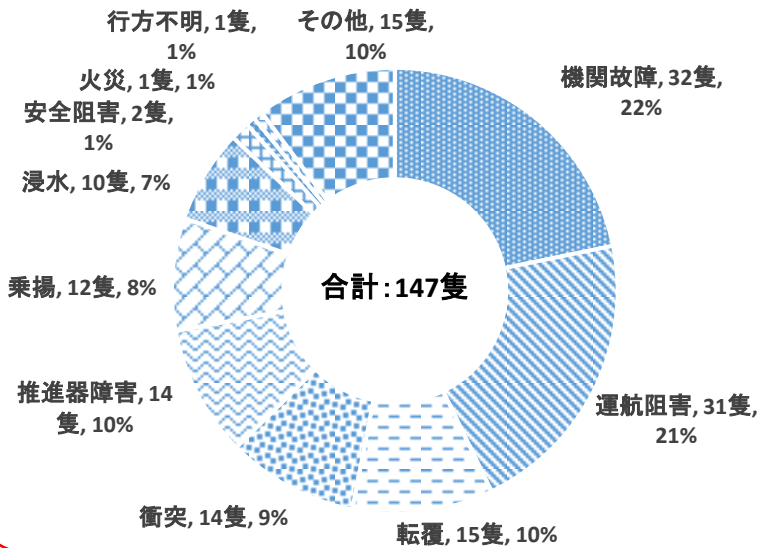


機関整備・点検のススメ！！

プレジャーボートの事故発生状況(H24-H28)

【プレジャーボート海難種類別(H24-H28)】

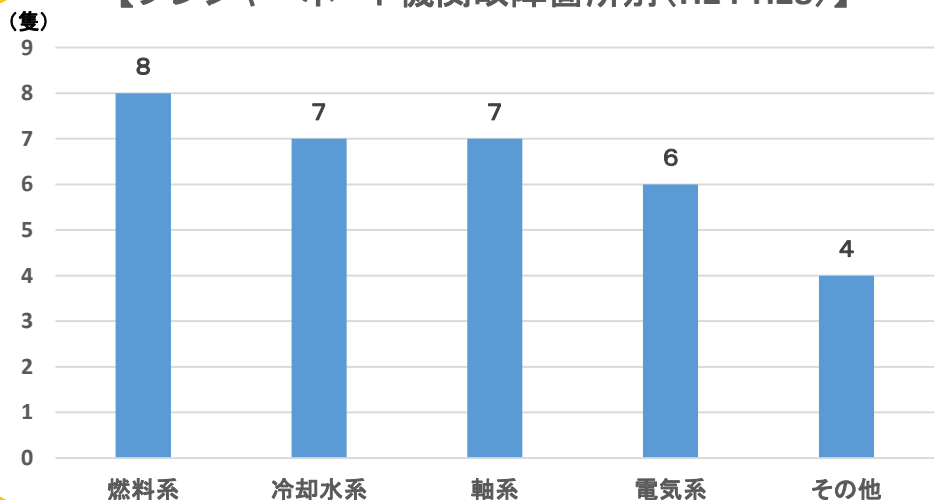


東北地方において、過去5年間に発生したプレジャーボート海難で最も多いのは**機関故障**です。



機関故障の原因箇所別では、最も多いのは燃料系で、次いで冷却水系、軸系となっています。

【プレジャーボート機関故障箇所別(H24-H28)】



第二管区海上保安本部 海の安全推進室

宮城県塩釜市貞山通3-4-1
(代表) 022-363-0111
(直通) 022-365-9609



マリレよろず

検索

◆事故事例(平成29年9月)

👉 プレジャーボートA丸は、釣りを終え、帰港するため、速力を上げようとしたが、回転数が上がらず、機関室を確認したところ、主機が半没状態であったことから、118番通報したものの。

浸水原因を調査したところ、キングストーンコックが目詰まりを起こし、機関がオーバーヒートしたため、同キングストーンコック接続部が熱膨張により破損、浸水したものと判明した。

👉 プレジャーボートB丸は、釣りを終え、帰港するため、船外機を起動しようとしたが、セルモーターは回転するものの、起動出来ず、その後も何度か起動を試みたところ、セルモーターも回らなくなったことから、118番通報したものの。

故障した船外機を修理業者で確認したところ、排気温度センサーの故障により、排気温度を制御することが出来なくなり、異常加熱したことから、ユニットエンジンコントロール部が故障したものと判明した。

機関点検ポイント！

■燃料系

①燃料フィルタ

燃料に異物が混じっていると、エンジンの不調やエンジン焼付きのおそれがあります。定期的に点検し、状況に応じて交換してください。



②油水分離器

混入した水により燃料噴射ポンプ、燃料噴射弁の異常磨耗や焼付きが生じ、エンジン不調になります。定期的にドレン抜きを実施してください。



■冷却水系

①冷却水ホース

エンジン始動前は、冷却水ホースのひび割れやホースバンドの緩みがないか確認しましょう。定期的に点検し、劣化しているものは交換してください。



②海水こし器

海水こし器にゴミが詰まっていると、エンジンのオーバーヒートの原因になります。定期的に点検し、ゴミが詰まっている場合は、掃除をしてください。



③海水ポンプ

海水ポンプのインペラは、損傷した場合、エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。運転時間又は経過期間に応じて交換が必要です。



■その他

①エンジンオイル

エンジンオイルの交換を怠るとピストンなど稼働部の磨耗が促進され、最悪の場合、エンジンの焼付きに至ることもあります。定期的に交換してください。



②スパークプラグ

スパークプラグは使用時間の増加に伴い電極が消耗したり、汚損し火花がうまく飛ばなくなり、エンジンの不調や燃費の悪化につながります。定期的に交換してください。



発航前点検の実施を忘れずに！

ライフジャケットの着用も忘れずお願いします。



マリレ情報よろず屋
～バックナンバーはこちら～

海の安全情報スマホ版サイト
(沿岸域情報提供システム)

